

平成 29 年度
京都大学大学院生命科学研究科
修士課程学生募集要項

研究科の理念とアドミッション・ポリシー

今日、生命科学は、人類の未来を切り開く先端科学として大きく変貌・発展しつつあります。本研究科は、このような世界的状況に対応して、世界最高水準の研究拠点の形成と次世代の生命科学をリードする人材養成を目的とし、平成11年にわが国最初の独立した大学院生命科学研究科として発足しました。本研究科は、既存の諸分野における先端領域を真に融合しながら、生命の基本原則を構成する「細胞・分子・遺伝子」を共通言語として、多様な生命体とそれらによって形成される環境を統合的に理解し、生命の将来や尊厳に関わる新しい価値観を作り出す独創的研究と教育を展開しております。

本研究科は、ますます高度化・複雑化する生命科学に対する社会からの多様な要請に応えるべく、以下のような人材の養成を目指します。(1)生命の基本原則を追求・発見し、世界最高水準の新しい生命科学を推進する研究者。(2)地球環境保全と人類の健康・福祉・幸福を目指し、民間を含む多様な研究機関で社会に貢献する研究者・高度技術者。(3)多彩な生命現象全般を広く理解し、教育や産業・報道・行政を通じて社会に貢献する教育指導者・高度実務者。

本研究科は、このような研究科の理念に共鳴し、本研究科で研鑽を積むことを希望する学生を広く求めています。特に、生命の尊厳を十分に理解しながら、既存の枠組みにとらわれない総合的・先端的な生命科学を築き上げる開拓者精神に富む学生を歓迎します。

本研究科は、このような意欲的な学生を各方面から受け入れるため、修士課程入学試験として、「一般入試」、及び「論文入試」(募集人員：若干名)を行います。「論文入試」では、生命科学とは異なる専門領域、例えば、数学、物理、化学、工学などの理系領域だけでなく、文系領域を学んだ学生をも対象としています。「論文入試」の入学者は、「一般入試」の入学者と同一のカリキュラムと同一の修了要件による教育が行われます。

I. 募集専攻及び研究分野

生命科学研究科は、次表に掲げる2専攻からなります。各専攻には、それぞれいくつかの研究分野があり、分野ごとに合格者を定めます。

次に各専攻の研究分野を示します。分野の内容については生命科学研究科各研究分野の説明(8頁～13頁、ホームページアドレス <http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j>)があるので参照してください。

募集専攻及び研究分野

専 攻	研 究 分 野
統合生命科学専攻	遺伝子伝達学、遺伝子動態学、細胞周期学、細胞認識学、シグナル伝達学、遺伝子特性学、生体情報応答学、微生物細胞機構学、分子応答機構学、分子代謝制御学、分子情報解析学、ゲノム維持機構学、神経発生学、細胞情報動態学、発生動態学、微細構造ウイルス学
高次生命科学専攻	分子動態生理学、生体制御学、高次遺伝情報学、生体応答学、分子病態学、生体システム学、システム機能学、高次生体統御学、染色体継承機能学、高次細胞制御学、生体動態制御学、細胞増殖統御学、高次情報制御学、生体機能材料学、生体適応力学、ゲノム損傷応答学

II. 募集人員

統合生命科学専攻 40 名 ただし、論文入試（若干名）を含みます。

高次生命科学専攻 35 名 ただし、論文入試（若干名）を含みます。

III. 出願資格

次のいずれかに該当する者、あるいは平成 29 年 3 月 31 日を以って該当する見込みの者。

- (1) 日本の大学を卒業した者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣が指定する専修学校の専門課程を文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (7) 文部科学大臣の指定した者
- (8) 大学に 3 年以上在学した者(学校教育法第 102 条第 2 項の規定により、これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。)であって、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22 歳に達したもの

(注意 1) 外国において、学校教育における 15 年の課程を卒業または卒業見込みの場合は、出願資格(8)により出願してください。

(注意 2) 出願資格(8)(9)による受験者への注意

ア 出願資格(8)(9)により出願を希望する方には、出願に先立ち資格審査を行うので、下記の出願資格審査必要書類を生命科学研究科教務掛へ請求し、**平成 28 年 6 月 10 日(金)17 時**までに生命科学研究科教務掛へ提出してください。

(郵送の場合は、必ず「書留便」あるいは「簡易書留」とし、封筒の表に「生命科学研究科修士課程出願資格認定申請」と朱書き、**平成 28 年 6 月 10 日(金)17 時必着**とします。)

なお、出願時には、出願資格審査において志望した分野と異なる分野に、原則として出願できないので、注意してください。

イ 出願資格審査必要書類

・ 出願資格(8)の場合

- | | |
|---------------------|---|
| (1) 出願資格審査申請書(所定用紙) | この用紙は問い合わせのあった方にものみ交付します。 |
| (2) 推薦書 | 在籍する大学が作成し、厳封したもの。様式随意。 |
| (3) 成績証明書 | 在籍する大学が作成し、厳封したもの。
(コピー防止用紙使用の場合は厳封不要) |
| (4) 志望理由書(所定用紙) | この用紙は問い合わせのあった方にものみ交付します。 |

・ 出願資格(9)の場合

- | | |
|---------------------|---|
| (1) 出願資格審査申請書(所定用紙) | この用紙は問い合わせのあった方にものみ交付します。 |
| (2) 成績証明書 | 最終出身学校が作成し、厳封したもの。
(コピー防止用紙使用の場合は厳封不要) |
| (3) 業績等調書(所定用紙) | 専攻分野に関連する研究業績等について、客観的知見等を |

- (4) 研究従事内容証明書 (所定用紙) 簡明に記載してください。
この用紙は問い合わせのあった方にのみ交付します。
所属機関等が作成し、厳封したもの。
この用紙は問い合わせのあった方にのみ交付します。
- (5) その他 公表された業績（書籍、論文、学会発表等）がある場合は、
これを証明する書類が印刷物等

ウ 審査方法及び日程

- (1) 出願資格 (8) (9) により出願資格の審査申請をした方は、予備審査を行います。
- (2) 資格審査の結果は、平成 28 年 6 月下旬に申請者あて郵送により通知します。
- ※ 出願資格 (8) により受験し合格した方は、平成 28 年度の成績証明書を平成 29 年 2 月末日までに京都大学大学院生命科学研究科教務掛に提出してください。平成 28 年度の成績証明書により調査した結果、期待された成果が得られていないと判断した場合は、合格を取り消すことがあります。
- また、平成 29 年 3 月末日までに退学証明書を提出してください。（従って、現在在学中の大学より学士の学位を取得することはできません。）

IV. 選抜方法

一般入試、論文入試の中からいずれか一つを選択してください。

(1) 一般入試

筆答試問（英語、共通専門科目、分野別専門科目）、口頭試問によって選抜します。Ⅲ「出願資格」（2 頁）以外の出願制限は特にありません。全ての筆答試問及び口頭試問を受験者全員に受験していただきますが、分野別専門科目及び口頭試問の採点は、英語及び共通専門科目の点数が合格基準以上を満たした場合のみ行います。すなわち、英語及び共通専門科目の点数が合格基準に満たない場合は、不合格となります。

試験方法：Ⅸ「学力検査日程」（5 頁）を参照してください。

(2) 論文入試

生命科学とは異なる専門領域を学んだ方を対象とした選抜方法です。

筆答試問（英語、小論文）、総合面接、口頭試問によって選抜します。全ての筆答試問、総合面接及び口頭試問を受験者全員に受験していただきますが、口頭試問の採点は、英語及び小論文の点数が合格基準以上を満たした場合のみ行います。すなわち、英語及び小論文の点数が合格基準に満たない場合は、不合格となります。

出願に当たっては希望理由書を必要とします。Ⅵ「出願書類」（4 頁）を参照してください。希望理由書をもとに審査し、論文入試受験者に該当しないと判断された場合は、一般入試への振替を行います。振り替える場合の連絡は 7 月 15 日（金）までに行います。

なお、入学後は一般入試の入学者と同一のカリキュラムと同一の修了要件による教育が行われます。

募集人員：若干名

試験方法：Ⅸ「学力検査日程」（5 頁）を参照してください。

V. 入学検定料

入学検定料：30,000 円

振込期間：平成 28 年 7 月 ~~12 日~~ 5 日（火）～7 月 13 日（水）（期間外取扱不可）※平成 28 年 4 月 5 日修正

振込方法：お近くの金融機関にて次の口座にお振り込みください。

（ATM からの振込も可。ただし、インターネットでの振込は不可。）

銀行名	支店名	預金科目	口座番号	受取人氏名
三井住友銀行	京都支店	普通	8089428	国立大学法人 京都大学

注意事項：

- (1) 必ず「振込依頼人名」が出願者本人の氏名であることを確認のうえお振り込み願います。
(出願者以外の名義で振込された場合は、願書を受理出来ない可能性があります。)
- (2) 振込手数料については出願者の負担となります。
- (3) 振込後、ATM等から発行されるご利用明細書（本紙）等振り込んだことが確認できるものを入学検定料振込金受付証明書貼付台紙に貼付して提出してください。その際に、写しを取っておくようにしてください。
- (4) 一旦納入された入学検定料は、理由の如何に関わらず返還しません。
- (5) 海外から検定料の振込をされる方は、事前にお問い合わせください。
- (6) 平成23年3月に発生した東日本大震災による災害救助法適用地域において、主たる家計支持者が被災し罹災証明書等を得ることができる場合は、入学検定料を免除することがあります。該当者は、**6月17日(金) 17時**までに、出願書類等提出先（6頁）へ問い合わせてください。

VI. 出願書類

出願書類の書式は、全て本研究科のWEBサイト (<http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>) より入手できます。
WEBからダウンロードし、各自で印刷した用紙（A4サイズ）を出願書類として使用してください。

(1) 入 学 願 書 写 真 票 ・ 受 験 票	必要事項を記入の上、上半身脱帽正面向きで、出願前3か月以内に単身で撮影した写真3枚を所定の枠内に貼付してください。
(2) 成 績 証 明 書	出身大学所定のもの。（厳封）（コピー防止用紙使用の場合は厳封不要）
(3) 卒 業（見 込）証 明 書	出身大学所定のもの。
(4) 入学検定料振込金受付証明書 貼付台紙	入学検定料を金融機関で納付した後、ATM等から発行されるご利用明細書（本紙）等振り込んだことが確認できるものを所定の位置に貼付。
(5) 受験票送付用封筒	長形3号封筒(120mm×235mm)に、出願者の住所・氏名・郵便番号を明記し 362円切手(速達)を貼ってください。
(6) あ て 名 票	合格通知、入学手続き書類を受け取る場所・郵便番号・氏名等を記入してください。
(7) 希 望 理 由 書 <論文入試の場合>	主要な専門領域、論文入試を希望した理由を記載してください。（A4判、一枚程度、様式随意）
(8) 出 願 承 諾 書 (所定用紙)	官庁・企業等の在職者が、休職等の形で、在籍のまま入学したい場合には、所属長又は代表者の出願承諾書を提出してください。 在職中の方で、出願承諾書を提出しなかった方は、入学試験に合格しても退職しなければ入学を許可しません。 出願承諾書は問い合わせのあった方にのみ交付します。

VII. 出願手続

- (1) 出願者は、出願書類を完備して、出願書類等提出先(6頁)あてに提出してください。
- (2) 出願書類を郵送する場合には、「書留便」あるいは「簡易書留」とし、封筒の表に「生命科学研究科修士課程入学願書」と朱書してください。

VIII. 願書受理期間

平成28年7月12日(火)～7月13日(水)。窓口での願書受理は、9時～12時、13時～17時とします。

郵送による場合も7月13日(水)17時必着とします。

ただし、入学検定料の納付を完了し、ATM等から発行されるご利用明細書(本紙)等振り込んだことが確認できるものを貼付した「入学検定料振込金受付証明書 貼付台紙」が提出されない場合は、願書を受理しません。

IX. 学力検査日程

<一般入試>平成28年8月5日(金)

時間		科目等	注 意	検査会場
筆答試問	9:00～10:00	英語	辞書の持込みは認めません。	京都大学 吉田地区 詳細は、受験 票送付の際に 通知します。
	10:15～11:15	共通専門科目	生命科学基礎に関する設問のうちから指定された数の問題を選択して解答してください。	
	12:15～14:15	分野別専門科目	志望する分野に関連した学力試問を行います。	
口頭試問	15:00～	第一志望分野 第二志望分野		

<論文入試>平成28年8月5日(金)

時間		科目等	注 意	検査会場
筆答試問	9:00～10:00	英語	辞書の持込みは認めません。	京都大学 吉田地区 詳細は、受験 票送付の際に 通知します。
	10:15～11:15	小論文		
総合面接	12:15～14:15	個別面談	志望分野の確認を行います。	
口頭試問	15:00～	第一志望分野 第二志望分野		

・科目等について

筆答試問の英語では、とくに英語の論文の読解・作文の基礎学力があることを、また共通専門科目では、生命科学(とくに分子生物学・生化学を基礎とする分子細胞生物学)の基礎学力があることを判定します。

・学力検査に関する注意事項

1. 試験室には必ず受験票を携帯し、係員の指示に従ってください。
2. 試験に使用を許す筆記用具等は、鉛筆、万年筆、ボールペン、シャープペンシル、鉛筆削り、消しゴムに限ります。
3. 指定された学力検査科目のうち、一つ以上を受験しなかった方は失格とします。
4. 第一志望分野の専門科目及び口頭試問を欠席した場合は、第二志望分野の専門科目及び口頭試問を受験することはできません。

X. 合格者発表

合格者の発表は、平成28年8月24日(水)17時(予定)に生命科学研究科掲示板(医学・生命科学総合研究棟1階)に掲示及び本研究科ホームページに掲載するとともに、本人あてに合格通知書を郵送します。(電話による問い合わせには応じません。)

XI. 入学料及び授業料

入 学 料	282,000 円 (予定) ※入学時に改定されることがあります。
前期分授業料	267,900 円 (年額 535,800 円) ※入学時及び在学中に改定されることがあります。

注意事項等

- (1) 本学大学院の「修士課程」は、大学院設置基準にいう「博士課程前期 2 年の課程」であって、本学では修士課程として取り扱われるものです。
- (2) 修士課程を修了した方が、博士後期課程に進学を志願する場合には、さらに選考を受けていただきます。
- (3) 出願者は事前に研究室訪問もしくはメール等で志望分野決定について教員と相談することを勧めます。
- (4) その他
 - 1) 試験当日は、試験開始 20 分前までに当該試験室前に集合してください。学力検査開始時刻に遅刻した場合は、係員の指示に従ってください。筆答試験開始時刻後 30 分以内の遅刻に限り受験を認めません。
 - 2) 出願書類受理後は、出願事項の変更は認めません。
 - 3) 募集要項ならびに出願書類の書式は、全て本研究科の WEB サイト (<http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/>) より入手してください。WEB からダウンロードし、各自で印刷した A4 サイズの用紙を出願書類として使用してください。
 - 4) 入学手続きについては、平成 29 年 2 月中旬(予定)に文書で合格者あてに通知します。
 - 5) 障害等があつて受験上若しくは修学にあたって配慮を必要とする方は、出願に先立ち電話等で申し出てください。

〔個人情報の取り扱いについてのお知らせ〕

出願書類に記載された個人情報は「京都大学における個人情報の保護に関する規程」に基づいて取り扱います。

【出願書類等提出先】

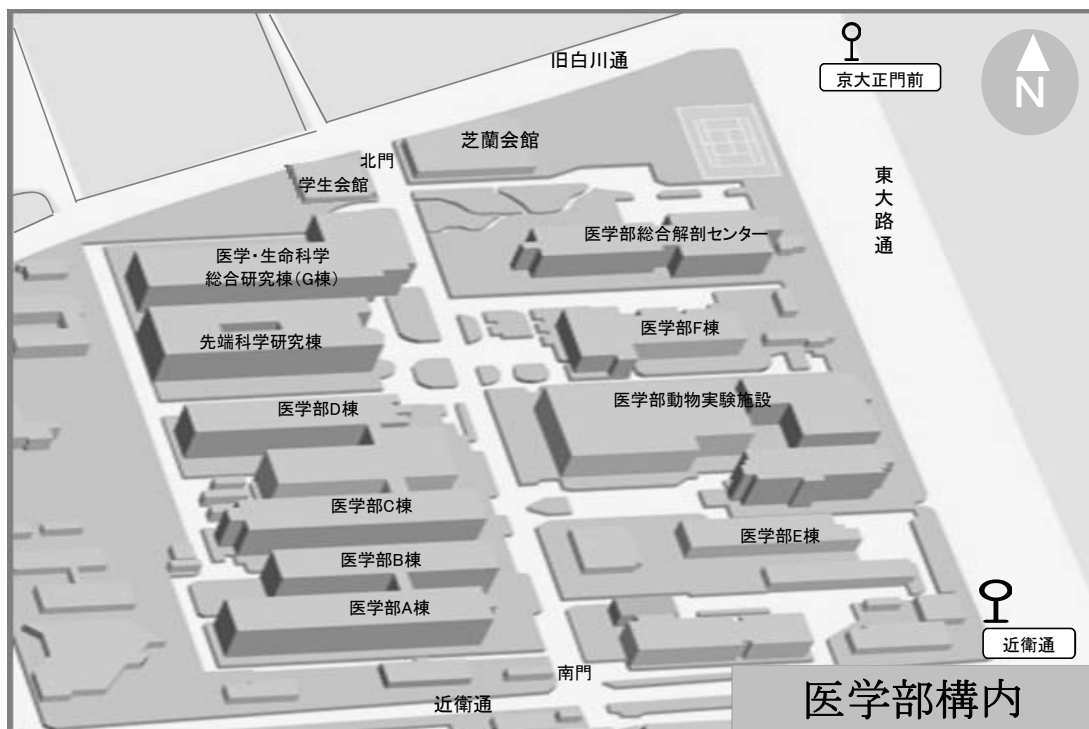
京都大学大学院生命科学研究科教務掛

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町(TEL 075-753-9222, 9424 FAX 075-753-9229)

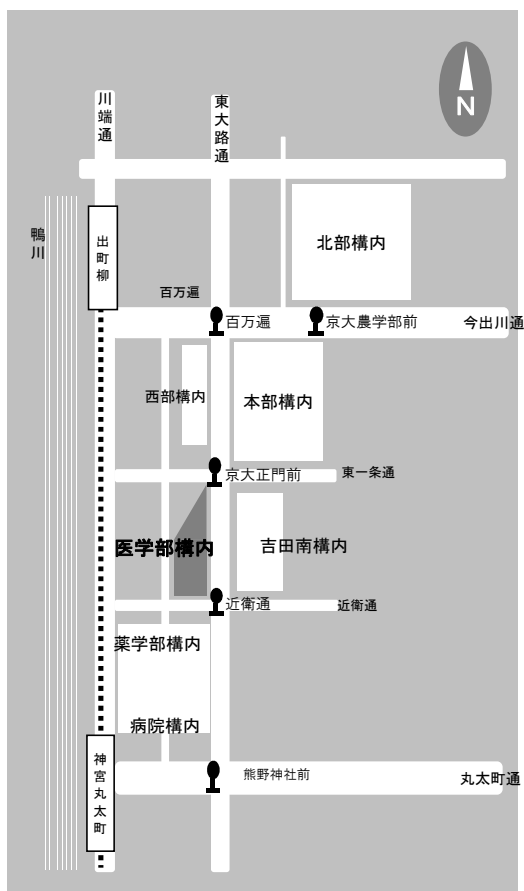
平成 28 年 4 月

京都大学大学院生命科学研究科

京都大学構内図



京都大学周辺略図



市バス案内等

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	下車バス停
JR／近鉄 京都駅から	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 祇園・北大路バスターミナル」行	近衛通
阪急 河原町駅から	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	近衛通
地下鉄 烏丸線 今出川駅から	市バス	烏丸今出川	31系統	「高野・国際会館駅・岩倉」行	近衛通
地下鉄 烏丸線 丸太町駅から	市バス	烏丸丸太町	201系統	「百万遍・祇園」行	近衛通
地下鉄 東西線 東山駅から	市バス	東山三条	206系統	「高野・北大路バスターミナル」行	近衛通
			201系統	「百万遍・千本今出川」行	近衛通
			31系統	「高野・国際会館駅・岩倉」行	近衛通
京阪出町柳駅から	市バス	出町柳駅前	201系統	「百万遍・祇園」行	近衛通
京阪 神宮丸太町駅	徒歩	出町柳方面出口を出て北東へ			

経路等については、ご自身で確認のうえご利用下さい。

統合生命科学専攻の研究内容

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
遺 伝 機 構 学	真核細胞の生存にとって必須な細胞周期制御のメカニズム、遺伝子の複製分配、維持、修復および遺伝子転写産物であるRNAの動的機能の分子メカニズムの解明について理解を深める。 そのために、複製分配機構を直接研究する遺伝子伝達学、細胞周期の必須因子を研究する細胞周期学、クロマチンや分子集合体レベルでの解析を取り入れた染色体動態学、さらにはこれらの発生過程における組織特異的な変化を研究する。	遺伝子伝達学	中世古幸信	遺伝情報の伝達を制御する遺伝子群の同定と機能解析により、それらの遺伝子群の機能相互作用の全体像を解明する。
		遺伝子動態学	白 石 英 秋	光合成微生物を材料に、その遺伝子動態、形態形成、環境応答、RNA 動的機能の解析を行うとともに、応用のための基盤の構築を行う。
		細胞周期学	石 川 冬 木 三好知一郎 定 家 真 人	クロマチン機能の観点から、細胞や個体の発生、成熟、老化、がん化を理解する。特に、染色体テロメア、クロマチンリモデリング、DNA 転写・修復反応および転移因子に注目する。
多 細 胞 体 構 築 学	多様な生命体の多細胞体制構築の基本概念と原理をその多細胞体(組織・器官あるいは個体)の機能発現との関連について理解を深める。	細胞認識学	上 村 匡 碓 井 理 夫 服部佑佳子 近 藤 武 史	栄養バランスが動物発生に与える影響を比較マルチオミックスを用いて研究する。感覚入力と行動を結ぶ神経回路の働きを、遺伝学的・光遺伝学的手法を用いて解明する。また、器官の2次元あるいは3次元構築において物理的な力が果たす役割を研究する。
		シグナル伝達学	西 田 栄 介 日下部杜央 宮 田 愛 彦	細胞増殖・細胞分化、発生ならびに寿命制御のシグナル伝達機構についての分子細胞生物学的研究。MAPキナーゼ並びに関連シグナル伝達の分子機構。
細胞全能性発現学	生物細胞の全能性基本原理の探求と応用分野への展開を目指し、種々の生物ゲノム解析を通して、その普遍性ならびに多様性を探索するとともに、細胞の全能性を分子レベル、細胞レベル、個体レベルで解析し、生物の多様な機能の基本システムに関して研究する。	遺伝子特性学	河 内 孝 之 西 浜 竜 一 山 岡 尚 平	モデル光合成生物を用いて植物にとって主要な環境因子である光の認識やシグナル伝達、分裂組織の維持と分化、植物個体の発生統御などの分子機構を分子遺伝学的に研究する。

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
応用生物機構学	多様な自然環境変化に対応して生物が獲得した情報応答機構と諸機能を、個体、器官、組織、細胞および分子のレベルで解明し、その応用に関する研究を行う。	生体情報応答学	永尾 雅哉 神戸大 朋 宮前 友策	1. 天然物からの有用な生理活性物質の単離・同定 2. 外部刺激に対する動物細胞・個体の応答現象の解明 3. 亜鉛のホメオスタシス制御機構の解明
		微生物細胞機構学	福澤 秀哉 山野 隆志 梶川 昌孝	微細藻類をモデルとし、光合成制御の原理を遺伝子レベルで解明するとともに、新たな物質生産のプラットフォームを構築する。特に、CO ₂ センシングとシグナル伝達機構、CO ₂ 濃縮機構、光エネルギー代謝と油脂や糖などの炭素代謝の制御機構を、ゲノムならびに遺伝子レベルで理解するとともに、新規バイオ素材の代謝工学に展開する。
		分子応答機構学	片山 高嶺 増田 誠司 加藤 紀彦	1. 腸内細菌と宿主の共生を支える分子基盤を解明するとともに、食や健康に還元するための応用展開を行う。 2. 遺伝情報の担い手として mRNA プロセッシングを統合的に解明するとともに、物質生産や食品に由来する化合物を用いた応用展開を行う。
環境応答制御学	生物の、内的・外的（生物的・非生物的）環境に対する応答に関与する情報素子の構造・機能相関の解析、外的環境に応答した発生・分化過程の調節機構の解析などをとおして、生物の多様な環境応答機構の基本システムを解明する。	分子代謝制御学	荒木 崇 遠藤 求	陸上植物の環境応答に関わる以下の研究をおこなう。 1. 個体の齢や成長相の転換（特に花成）を調節する分子機構に関する研究 2. 長距離作用性情報高分子の輸送と作用の分子機構に関する研究 3. 概日時計の組織特異性に関する研究 4. 有性生殖（特に配偶子形成）の制御機構 5. 生活環を調節する機構の進化
		分子情報解析学	吉村 成弘 桑田 昌宏	染色体、細胞骨格、核膜等の細胞内巨大分子複合体の構築や崩壊に関する分子機構を以下のアプローチで解明する。 1. 生化学とナノテクノロジーとを組み合わせ、分子の形と機能の in vitro イメージング。 2. in vivo イメージングや分子シミュレーションを用いた、細胞内部におけるタンパク質の構造・機能的ダイナミクスの解明。

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
生 体 構 造 解 析 学	細胞機能の獲得と維持に必須の、DNA、タンパク質分子および細胞内構造の動的変化とその機構を、分子生物学、細胞生物学、イメージング技術などを用いて研究する。	ゲノム維持機構学	松 本 智 裕 古 谷 寛 治	セントロメアの構造制御、種々の細胞周期チェックポイント、ストレス応答機構などの解析を通じてゲノムとエピゲノム情報の継承の仕組みの理解を目指す。
		神経発生学	見学美根子	哺乳動物脳の皮質形成過程におけるニューロン移動・細胞形態分化のダイナミクスと特異的神経回路形成のメカニズムを、ライブイメージングや細胞・分子生物学的手法を用いて解析する。
細 胞 機 能 動 態 学	ウイルス感染などに対する免疫応答について、分子遺伝学的手法および発生工学的手法をもちいて、分子・細胞・個体レベルでの研究を展開する。	細胞情報動態学	藤 田 尚 志 加 藤 博 己	抗ウイルス自然免疫機構の活性化機構を研究する。特にウイルス由来のRNA分子を異物としての認識する機構、それによって発生する信号伝達機構、その異常の結果起きる病態について研究する。
		発生動態学	影山龍一郎 大塚 俊之 小林 妙子	発生過程における遺伝子発現制御機構をイメージング、光遺伝学、遺伝子改変マウスといった技術を使って研究する。数理モデルから予測される現象を検証することで、発生動態の理解を目指す。
		微細構造ウイルス学	野田 岳志 中野 雅博	インフルエンザウイルスおよびエボラウイルスの細胞内増殖機構の解明ならびにその制御法の確立を目指す。

高次生命科学専攻の研究内容

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
認 知 情 報 学	細胞増殖やメカノセンスを制御する細胞シグナルの蛍光イメージングとシミュレーションモデルを用いて、分子レベルから細胞癌化などの高次生命機能の基本原理を幅広く研究する。	分子動態生理学	渡 邊 直 樹 山城佐和子 水 野 裕 昭	1. 細胞内蛍光単分子イメージング 2. 細胞メカノセンスの可視化 3. フォルミンファミリー等のアクチン制御分子機構 4. 分子標的薬の作用可視化・解明 5. 超解像顕微鏡 IRIS の応用開発
		生体制御学	松 田 道 行 今 城 正 道	1. 細胞増殖シグナルの蛍光生体イメージングによる解析 2. 蛍光バイオセンサー発現トランスジェニックマウスを用いた病態解明 3. 新規抗がん剤の開発
体 制 統 御 学	生体は、細胞、組織、器官、個体という異なった階層から構成され、これらの統御を通じて体制の構築と維持を図ることが可能となる。この機構を明らかにすることを目的とし、細胞の増殖・分化・死、細胞間の相互作用、組織、器官の形成について、時間軸を考慮しながら、個体構築と維持におけるメカニズムの基本原理を分子・細胞・個体レベルで追求する。	高次遺伝情報学	米 原 伸 酒 巻 和 弘 李 慶 權	1. 細胞死シグナルとその生理機能 2. 細胞死を制御するシグナル分子の多彩な機能 3. 細胞死とそれに対する免疫反応 4. 細胞死と発生・発がん・免疫
		生体応答学	高 原 和 彦	1. 生体防御応答における細胞及び高次生命体の非自己認識機構。 2. 免疫寛容と免疫制御機構。
		分子病態学	松 崎 文 雄	神経幹細胞の自己複製と神経分化の経時的・空間的制御プログラムの解析を通して脳の形成原理と機能発現のメカニズムを明らかにする。マウスとショウジョウバエをモデル実験系とする。
			今 井 猛	マウス嗅覚系をモデルとして、哺乳類の中樞神経系に機能的かつ特異的な神経回路が作られる発生メカニズムを研究する。
			北 島 智 也	マウス卵母細胞の減数分裂における染色体動態を主にライブイメージングを用いて定量的に解析し、卵子に正しく染色体が分配されるメカニズムを解明する。

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
高次応答制御学	高次生命体は、遺伝子の情報によって自律的に制御されると同時に外界に対して常に対応できる体制を整えている。この結果、遺伝情報および応答機構の異常は、癌や自己免疫疾患、成人病を発症するに至る。種々の因子による細胞の増殖機構、免疫系の自己・非自己の識別機構等の生体の基本的な応答機構、一方、癌、免疫疾患、遺伝病、成人病等の生体の異常機構を解説し、生命体の応答制御の基本原則を講述する。	生体システム学	根 岸 学 加 藤 裕 教	神経機能、特にGタンパク質による神経細胞の形態調節の分子機構の研究
		システム機能学	井 垣 達 吏 大澤志津江 榎 本 将 人	細胞間コミュニケーションを介した組織・器官の発生・成長制御と恒常性維持機構、またその破綻によるがん発生・進展機構を、ショウジョウバエ遺伝学と生体内イメージングを中心としたアプローチにより研究する。
高次生体統御学	生体は一つの統一された実体として存在する。このために、脳、神経系、免疫系、内分泌系、循環器系統は相互に関連して生体を制御し機能している。生体の統一された機能発現のメカニズムと制御機構について講述する。	高次生体統御学	垣 塚 彰 今 村 博 臣 笹 岡 紀 男	モデル動物や生体内代謝イメージング技術を用いた神経変性疾患、発癌、肥満等の基本原理の解明と、それに基づく治療法の開発。
生命科学教育学・遺伝学	真核生物のゲノム DNA の機能を維持するためには、DNA が、DNA 二重鎖、クロマチン、染色体、核構造というレベルで制御される必要がある。ゲノム情報が娘細胞へ、そして次世代へ分配される過程において、正確に継承される分子メカニズムを講述する。	染色体継承機能学	CARLTON, Peter	超解像度顕微鏡技術を駆使し、減数分裂期における染色体動態制御、及び細胞分化やDNA 損傷修復反応におけるエピジェネティック修飾の役割を解明する。
高次生体機能学	高次生命体の形成・維持を担う生命シグナルを、ゲノム応答、細胞応答、組織応答、個体応答を含む多階層縦断的ネットワークとして捉え、それを支える分子メカニズムを探究する。さらに、ウイルスやモデル動物、生体材料などを利用して、生命シグナル制御ネットワークのダイナミズムとプラスティシティを追究し、高次生体機能の基本原則を幅広く研究する。	高次細胞制御学	杉 田 昌 彦 森 田 大 輔	脂質免疫を基盤にした、微生物やがんに対する生体防御機構を細胞レベル・生体レベルで研究する。
		生体動態制御学	朝 長 啓 造 土 方 誠 本 田 知 之	細胞および高次生命体のウイルス病原機構およびウイルス感染増殖の基本原則。
		細胞増殖統御学	豊 島 文 子 小田裕香子 松 村 繁	1. 細胞分裂軸を決めるメカニズムと組織恒常性維持 2. 幹細胞の運命決定機構 3. 妊娠・出産期における母体組織幹細胞の制御機構
		高次情報制御学	清 水 章	モデル動物などを用いた高次生命体の情報処理機構の基本原則。

講 座		分 野	教 員	研 究 内 容
		生体機能材料学	田 畑 泰 彦 山 本 雅 哉 城 潤一郎	生体機能の解明と生命科学研究・医療（治療、診断、予防）のための生体材料をデザイン、創製する。生体材料の具体的な応用例は、再生医療、医療デバイス、幹細胞工学、ドラッグデリバリーシステム（DDS）である。
		生体適応力学	安 達 泰 治 井 上 康 博 亀 尾 佳 貴	生体組織の発生・再生における幹細胞分化、多細胞組織・器官の形態形成、リモデリングによる機能的適応などにみられる階層的な生命システム動態の理解を目指し、力学・数理科学の観点から融合的研究を進める。
		ゲノム損傷応答学	高 田 稔 石 合 正 道	1. ゲノム損傷への生体防御応答における分子メカニズムの解明 2. ファンconi貧血や家族性乳がんなどゲノム損傷応答を欠損する疾患の病態解析 3. これら知見にもとづく治療法の開発

※1 高次生命科学専攻認知情報学講座分子動態生理学分野・生体制御学分野について
http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/uploads-images/sites/2/2014/03/5.sasikomi_igaku29.pdf

※2 高次生命科学専攻高次生体機能学講座 高次細胞制御学分野・生体動態制御学分野・細胞増殖統御学分野について
http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/uploads-images/sites/2/2014/03/6.sasikomi_virus29.pdf

※3 新規に募集分野が追加される場合があります。その場合は、生命科学研究科 HP の入試情報のサイト (http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/j/?page_id=267) に随時掲載していきますので、確認するようにしてください。